

第12回

「リスペクトして平等に付き合う」

日本エヌ・ユー・エス株式会社 技術顧問
株式会社価値総合研究所 元代表取締役社長
黒川 俊夫



石油精製プラントや資源開発プロジェクトの開発推進、石油・石油化学・エネルギー開発関連のプロジェクトファイナンスに係わる業務に従事され、技術面と経済面での評価に詳しい黒川俊夫氏にお話を伺いました。2017年7月より JANUS の技術顧問をお願いし、従業員とともに業務に参画していただき、ご指導を賜っております。

一石油精製の技術はどこで学ばれたのですか。

静岡県浜松市で生まれ育ちました。親の目から離れたいとの思いから大学は北海道大学に進学しました。父親が電気技師だった関係でしょうか理系を目指しました。専攻は工学部応用物理学科でしたが、空手部に入って熱中していたものですから、大学ではほとんど勉強しませんでした。

石油精製の技術については、大学を卒業して入社した石油会社で仕事を通じて学びました。千葉県市原市に製油所があり、まず、製油所の操業技術を現場で習得しました。その後、本社企画技術部で中長期経営計画策定及び生産最適化 LP モデル開発・運用に従事しました。

大学では空手ひと筋でしたので、基本的な化学工学については、先輩から参考書を借りて集中して自分で勉強しました。大学で2年かけてやることを短時間で覚えました。

石油精製関連の技術は、日本は米国より遅れていましたから、米国人の上司から最先端の技術を基礎から学びました。この技術が、その後、コンサルティング業務に従事したときに活かすことになりました。

一海外のプロジェクトにはどのように従事さ**れたのですか。**

石油会社には5年在席し、その後、商社の技術コンサルティング会社に転職しました。ここでは、石油会社で学んだ石油精製技術が大変役立ちました。

海外の石油・石油化学工業や資源開発プロジェクトの開発推進、途上国の国営石油会社などのマスタープラン作成、海外の石油代替エネルギープロジェクトの開発推進や関連技術の国際間移転業務、JICA の技術協力案件などに従事しました。

技術の分かる人間として商社では重宝され活躍できました。日本が海外進出をどんどん進めている頃、商社の先見の明のある良い上司と出会い、恵まれました。良い方々と組み、認められ、沢山の仕事ができ経験を積みました。

一コンサルティング業務会社の社長になられたきっかけは。

その後、銀行の総合研究所に転職しました。ここでは、国際プロジェクト開発に関して、金融面、M&A、業務提携、技術戦略などに係わる調査・コンサルティング業務に従事しました。

バブルの影響で株主の銀行が整理され、総合研究所は解散し、調査事業会社とコンサルティング業務会社にそれぞれスポンサーが付き分かれしました。その後、両社も継続が危なくなり解散する羽目に陥りました。コンサルティング業務会社は、スポンサーの株主より MEBO (Management Employee Buy Out) にて全株式を役職員が取得し、役職員持ち株会社に移行し独立しました。私はたまたまこのコンサルティング業務会社の方に移籍していましたので MEBO に参画しました。

この会社を存続させたいと強く願う優秀な仲間と

共に会社再生計画書を主導して作成したこと、最年長者であったことから社長に就任しました。

良い仲間がいたことが会社再生の力になりました。良い仲間がいなければ再生はできなかったと思います。

－良い仲間を得る極意はありますか。

誰とでも平等に付き合うこと、すなわち「来るもの拒まず、去るもの追わず」だと思います。そしてお互いにリスペクトし合うことが大切だと思います。

昔から、声を掛けられ誘われたとき、先約がない限り断ることはしません。遊びごとをしても先に帰ることはしません。とことん付き合うことを身上にしています。

社長に就任するときに、80名余りのスタッフがいました。このうち会社を存続させたいと同じ思いを持つ数十人の仲間と、会社再生について合意形成が出来ました。このような一大事となるとベクトルが同じです。ベクトルが同じ人間は、自ずと一致団結して困難を乗り切る連携ができるのではないのでしょうか。良い方に転がるように、良い仲間巡り合いました。

－これからのイノベーションについて課題はありますか。

エネルギー・環境分野でのイノベーションに期待していることですが、地球温暖化対策に向けた二酸化炭素の削減対策は大きな政策上の課題だと思います。たとえ技術のブレークスルー（進歩）には限界があるとしても、お金を掛けてもやらなければならないことがあるのではないかと思います。

大きな障壁は経済産業省と環境省が政策で対峙していることです。現状の打開が必要だと思います。エネルギー・環境問題を専担に取扱うエネルギー・環境省なる新しい組織が出来れば地球環境問題を解決するためのイノベーションがもっともっと加速されるのではないかと考えています。

－最近、楽しみにしていることは。

年齢とともに活動範囲がますます狭くなる中で、1984年来、30年以上続いている楽しみがあります。年に2回、毎年、長野県の奥志賀に出掛けています。

6月はクマザサのタケノコである姫竹狩り、10月はキノコ狩りです。70歳代、50歳代、30歳代、20歳代で構成される10人弱が毎回参加しています。20歳代の若い女性も一緒です。

会社では、若い人たちと一緒にわいわいがやがや仕事ができることを大変楽しみにしています。

－若い人に一言お願いします。

失敗を恐れず果敢に新しい仕事にチャレンジしていくことですね、失敗は先輩の責任だと開きなせる勇気が必要ですかね。

人との出会いは大切に、良い人と出会える機会がどんどん増えます。

年寄りには老婆心であれこれと重箱をつつくようなことを言いかねませんが、シリアスにならず笑顔で「ハイ」と答えておけばそれで済みます。

－座右の銘はありますか。

あります。「実力：天気なんか気にしていたら勝てない。雨でも晴れでも強いものは強い。だから幸運も不運もない。」です。1964年東京オリンピックのマラソンで裸足で走り金メダルを取ったエチオピアのアベベ選手が記者団に話した言葉です。目標の大学の受験に失敗して浪人していたとき、衝撃的な言葉でした。自分の実力のなさを反省せず、運がなかったと決めつけていた自分を目覚めさせてくれました。

(編集後記)

経済系の新聞を毎日読むときに、「自分の知らないところを読むようにしている、新しい発見ができるから」とのお話しでした。自分が知っている分野では、「間違っているのでは」と感じるころがあれば、再検証して読み直すようにしているとのこと。性格的に定量的に検証したいので、モデルでしっかり評価してほしいという面があるそうです。

常に新しいことを取得していく力は、人との付き合いかたにも表れているように感じました。今後のご活躍に期待いたします。

2018年3月